

# 資格課程委員会・社会教育主事課程

## 1 大学の理念・目的および学部等の使命・目的・教育目標

### (理念・目的等)

A群・大学・学部等の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的の適切性

A群・大学・学部等の理念・目的・教育目標等の周知の方法とその有効性

### ★現状(評価)

#### ・現状

社会教育主事は、社会教育法により「社会教育を行なう者に専門的技術的助言と指導を与える」教育の専門職と規定され、都道府県および市町村の教育委員会に配属される。社会教育主事の養成については文部科学省令「社会教育主事講習等規定」に科目と単位が定められており、本学では同省令に基づいて社会教育主事任用資格のためのカリキュラムが組まれている。

本学社会教育主事課程においては、上記社会教育主事の資格取得に必要なカリキュラムをふまえ、さらに学習を組織する力量の形成をめざす。

#### ・長所

現代社会において、社会教育の分野のみならず、自治体における福祉やまちづくりなどの分野、NPOなどの民間団体の活動や、企業活動においても、広く人々の学びが展開している。そのような多様な分野において、今後いっそう学習を組織する力が必要とされると考えられる。

#### ・問題点

該当せず

### ★改善方策

生涯学習という視点から、学校を含め地域の教育・生活・文化に関わる領域を幅広く学べるよう、教職・学芸員・司書等他課程との連携をはかる。そのためこの間それぞれの課程に設置されている科目を受講できるよう改善を行い、それが達成されてきている。

### (理念・目的等の検証)

C群・大学・学部等の理念・目的・教育目標を検証する仕組みの導入状況

C群・大学・学部等の理念・目的・教育目標の、社会との関わりの中での見直しの状況

### ★現状(評価)

#### ・現状

中央教育審議会生涯学習分科会において、生涯学習を推進する人材の育成及び確保の在り方に関する作業部会が報告を出すなど、政策動向に変化が見られる。また、日本社会教育学会においては、プロジェクト研究として専門職大学院構想の検討を始めた。本学社会教育主事課程としては、まだ検討を始めていない。

#### ・長所

#### ・問題点

### ★改善方策

#### ・問題点に対する改善方策

先の政策動向や社会教育学会の動向を踏まえ、本学社会教育主事課程として検討を始める。

### (健全性, モラル等)

C群・大学としての健全性・誠実性、教職員及び学生のモラルなどを確保するための綱領等の策定状況

### ★現状(評価)

#### ・現状

社会教育主事課程として社会的なモラルをとくに強く求められるのは、社会教育実習である。実習中のトラブルや、実習上知りえた事実に関する守秘義務などは、実習先と連絡しつつ、授業時に指導している。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・長所 実習により学ぶことで、学生にとってはモラルを社会的な文脈にそくして、その理由を理解することができる。</li> <li>・問題点 現在のところ、とくになし</li> </ul>
★改善方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題点に対する改善方策 とくになし</li> </ul>

## 1 大学の理念・目的および学部等の使命・目的・教育目標に基づいた特色ある取組み

(大学・学部における特色ある取組)
★現状(評価)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状 本学社会教育主事課程では、実践研究・現場経験のある教員を非常勤講師に迎えている。また、社会教育実習を4年次の選択必修科目とし、他大学より長い12日間の実習を行っている。このように、実践とのかかわりを大切にしたカリキュラムとしている。</li> <li>・長所 非常勤講師の現職・元職の機関・施設や、実習を依頼した機関・施設など、多くの社会教育の現場と関係が作られ、その後も本学の教育にご協力いただくなどが可能になっている。</li> <li>・問題点 多忙な教員間の連絡・調整、専任教員の実習先への挨拶や事務連絡などの業務の多さ</li> </ul>
★改善方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題点に対する改善方策 専任・非常勤の教員による検討会議を実施し、科目間の意見交流を促進する。TAが配置されたことにより、実習の事務や学生との連絡調整を円滑に行う。</li> </ul>

## 2 教育研究組織

★目的・目標
(教育研究組織)
A群・当該大学の学部・学科・大学院研究科・研究所などの組織の教育研究組織としての適切性、妥当性
★現状(評価)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状 社会教育主事課程の専任教員は2名(教授1, 准教授1)である。</li> <li>・長所 社会教育実習の授業を複数教員制で行うなど、他大学にない教育実践を行っている。</li> <li>・問題点 今年度よりTA2名がついたことで、課程室の運営(施設・物品の管理)に問題があった。資料整理も始まり、学生サービスは大きく改善しつつある。しかしながら、社会教育関係の就職情報の提供は、現在、掲示と教員によるメール配信</li> </ul>

にとどまっている。今後、充実したい。

★改善方策

- ・問題点に対する改善方策  
嘱託職員を配置し、教職・学芸員・司書・司書教諭課程と同様の学生サービスが提供できるようにする。

(教育研究組織の検証)

C群・当該大学の教育研究組織の妥当性を検証する仕組みの導入状況

★現状(評価)

- ・現状  
全国社会教育職員養成研究連絡協議会(社養協)等において、他大学・現場自治体との研究討議を行っている。
- ・長所  
他大学の状況や政策動向に関する情報を得たり、本学の職員養成を報告・検証することができる。
- ・問題点  
とくになし

★改善方策

- ・問題点に対する改善方策  
とくになし

### 3 学士課程の教育内容・方法等

#### (1)教育課程等

(学部・学科等の教育課程)

★目的・目標

- A群・学部・学科等の教育課程と各学部・学科等の理念・目的並びに学校教育法第52条、大学設置基準第19条との関連
- A群・学部・学科等の理念・目的や教育目標との対応関係における、学士課程としてのカリキュラムの体系的性
- A群・教育課程における基礎教育、倫理性を培う教育の位置づけ
- B群・「専攻に係る専門の学芸」を教授するための専門教育的授業科目とその学部・学科等の理念・目的、学問の体系的並びに学校教育法第52条との適合性
- B群・一般教養的授業科目の編成における「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養」するための配慮の適切性
- B群・外国語科目の編成における学部・学科等の理念・目的の実現への配慮と「国際化等の進展に適切に対応するため、外国語能力の育成」のための措置の適切性
- B群・教育課程の開設授業科目、卒業所要総単位に占める専門教育的授業科目・一般教養的授業科目・外国語科目等の量的配分とその適切性、妥当性
- B群・基礎教育と教養教育の実施・運営のための責任体制の確立とその実践状況
- C群・グローバル化時代に対応させた教育、倫理性を培う教育、コミュニケーション能力等のスキルを涵養するための教育を実践している場合における、そうした教育の教養教育上の位置づけ
- C群・起業家的能力を涵養するための教育を実践している場合における、そうした教育の教育課程上の位置づけ
- C群・学生の心身の健康の保持・増進のための教育的配慮の状況

★現状(評価)

- ・現状

文部科学省の省令にもとづいてカリキュラムを組んでいるため、カリキュラムの体系性は確保されている。と同時に、「社会教育特講Ⅰ」の現代的課題への対応の趣旨に沿って、ジェンダー問題、福祉、環境問題に関わる科目を設置している。

・長所

・問題点

#### ★改善方策

・問題点に対する改善方策

生涯学習がキーワードになっている状況をふまえ、地域における多様な学習・文化活動の広がりに対応するとともに、生涯学習の中核を担うべき社会教育の位置と役割がより鮮明となるカリキュラムを編成していく。社会教育特講Ⅰの中の「ジェンダーと教育」(通年4単位)を2008年度より半期2単位のⅠとⅡに分け、より受講がしやすいようにした。

#### (インターンシップ、ボランティア)

##### ★目的・目標

C群・インターンシップを導入している学部・学科等における、そうしたシステムの実施の適切性

C群・ボランティア活動を単位認定している学部・学科等における、そうしたシステムの実施の適切性

##### ★現状(評価)

・現状

社会教育関係のボランティアについては、適時学生への情報提供を行っており、特に児童館にはこれまで多くの学生が参加してきている。

・長所

社会教育関係の現場を経験することで、職員への動機づけとなっているケースの多い。

・問題点

##### ★改善方策

・問題点に対する改善方策

さらに多くの社会教育関係のボランティア活動を紹介することで、学生の学習を実践的に支援していくようにする。

#### (履修科目の区分)

##### ★目的・目標

文部科学省の省令によって最低必要単位が24単位と規定されており、そのうち必修が8単位、選択が16単位となっているため、本学でもそれに沿った単位の配分となっている。

B群・カリキュラム編成における、必修・選択の量的配分の適切性、妥当性

##### ★現状(評価)

・現状

・必修科目 生涯学習概論・社会教育計画

・選択必修科目の社会教育実習又は社会教育課題研究、社会教育特講Ⅰ 現代社会と社会教育、Ⅱ 社会教育活動・事業・施設、Ⅲその他必要な科目、

・長所

社会教育特講Ⅰ(現代社会と社会教育)の中には、「ジェンダーと教育」「現代の子どもと社会教育」「福祉と社会教育」「環境問題と社会教育」の4つの科目を置き、また人権問題については、社会教育課題研究の中で取り上げることによって、現代的課題に応える社会教育の課題を幅広くについて学べるようにしている。

・問題点

特になし

<b>★改善方策</b>
・問題点に対する改善方策 当面、現在のカリキュラムを維持し、その中身の充実に努める。
<b>(授業形態と単位の関係)</b>
<b>★目的・目標</b>
2～4年次に、講義・実習を含めたカリキュラムを履修する。
A群・各授業科目の特徴・内容や履修形態との関係における、その各々の授業科目の単位計算方法の妥当性
<b>★現状(評価)</b>
・現状 「生涯学習概論」において生涯学習の政策・社会教育の実践を概括し、「社会教育計画」において社会教育行財政を中心とした講義を配置し、「ジェンダーと教育」「現代の子どもと社会教育」「環境問題と社会教育」「福祉と社会教育」において現代的な課題別の講義を配置し、4年次に選択必修で「社会教育課題研究」、「社会教育実習」を履修できる。年次進行、科目配置とも妥当である。
・長所
・問題点 とくになし
<b>★改善方策</b>
・問題点に対する改善方策
<b>(単位互換, 単位認定等)</b>
<b>★目的・目標</b>
科目等履修生が履修済みの単位を活用できるようにする
B群・国内外の大学等と単位互換を行っている大学にあつては、実施している単位互換方法の適切性 B群・大学以外の教育施設等での学修や入学前の既修得単位を単位認定している大学・学部等にあつては、実施している単位認定方法の適切性 B群・卒業所要総単位中、自大学・学部・学科等による認定単位数の割合 C群・海外の大学との学生交流協定の締結状況とそのカリキュラム上の位置づけ C群・発展途上国に対する教育支援を行っている場合における、そうした支援の適切性
<b>★現状(評価)</b>
・現状 科目等履修生の履修済み単位を科目ごとに教員が検討し、認定する。
・長所
・問題点 とくになし
<b>★改善方策</b>
・問題点に対する改善方策
<b>(開設授業科目における専・兼比率等)</b>
<b>★目的・目標</b>
今後とも専任担当科目を高い割合で維持していく

B群・全授業科目中、専任教員が担当する授業科目とその割合

B群・兼任教員等の教育課程への関与の状況

★現状(評価)

・現状

生涯学習概論, 社会教育計画, 社会教育課題研究, 社会教育実習, ジェンダーと教育, 環境問題と社会教育課程独自に設置する8科目のうち, 6科目。

・長所

教員の専門性を生かして, カリキュラム全体を構造化できる。

・問題点

「社会教育実習」は, 時間の制約の中で実習先との連絡調整, 複数担当制による教員間の調整が求められるので, サポートが必要。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

嘱託職員を配置し, 教職・学芸員・司書課程における実習と同様のサポート体制を確立する

(社会人学生, 外国人留学生等への教育上の配慮)

★目的・目標

C群・社会人学生, 外国人留学生, 帰国生徒に対する教育課程編成上, 教育指導上の配慮

★現状(評価)

・現状

留学生の受講はない。社会人学生は相対的に積極的に授業に参加しているため, 他の学生に良い刺激を与えている。

・長所

授業では社会人学生の職業体験を紹介してもらうなどの働きかけを行なっている。

・問題点

社会人学生の場合, 有職者も多いことから仕事の関係で欠席した際のフォローの方法などについて検討していく。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

学生のグループ活動を取り入れ, 学生間の関係作りをうながす。

(生涯学習への対応)

★目的・目標

ユビキタス・カレッジなどにより, 広く社会人の課程履修を可能にする

B群・生涯学習への対応とそのための方策の適切性, 妥当性

★現状(評価)

・現状

社会人学生の積極的な受入れと他大学卒業生の科目等履修生の受入れを行なっている。

・長所

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方策

今後ユビキタス・カレッジの導入により、すでに社会教育での学習経験のある社会人が課程を履修し、職業資格を得ようとする場合が想定され、よりいっそう現場の経験を職員養成に生かすことができる

(2) 教育方法等

(教育効果の測定)

★目的・目標

教育の内容と方法の統合。

B群・教育上の効果を測定するための方法の適切性

B群・教育効果や目標達成度及びそれらの測定方法に対する教員間の合意の確立状況

B群・教育効果を測定するシステム全体の機能的有効性を検証する仕組みの導入状況

B群・卒業生の進路状況

C群・教育効果の測定方法を開発する仕組みの導入状況

C群・教育効果の測定方法の有効性を検証する仕組みの導入状況

C群・教育効果の測定結果を基礎に、教育改善を行う仕組みの導入状況

C群・国際的、国内的に注目され評価されるような人材の輩出状況

★現状(評価)

・現状

担当教員によっては、毎回授業の最後に学生からの感想や質問などを書いたアンケート用紙を回収したり、学生が作成したレポートを少人数で読みあう相互評価などを行っている。

・長所

大学実施のアンケートより、教育内容に即した点検が可能である。また数値に反映できない学習の実態を知ることができる。

・問題点

教員間での検証が十分に行われていない

★改善方策

・問題点に対する改善方策

学生の授業評価実施に伴い、定期的に教員間の打ち合わせを行なうようにする。

(厳格な成績評価の仕組み)

★目的・目標

科目の特性に基づき、適正に評価する

A群・履修科目登録の上限設定とその運用の適切性

A群・成績評価法、成績評価基準の適切性

B群・厳格な成績評価を行う仕組みの導入状況

B群・各年次及び卒業時の学生の質を検証・確保するための方途の適切性

C群・学生の学習意欲を刺激する仕組みの導入状況

★現状(評価)

<p>・現状 科目ごとに適正な評価が行われている。 カリキュラムを整備し、基礎から専門へと学べる科目を配置している。またグループ討論やワークショップなど社会教育の方法等を授業の中に導入するとともに、施設見学や現場職員の講義など具体的な理解をはかる工夫を行なっている。また4年次には実習を開設し、これまでの学習の成果を確認し、それを具体的に生かせるようにしている。</p> <p>・長所</p> <p>・問題点 とくになし</p>
<p>★改善方策</p> <p>・問題点に対する改善方策</p>
<p>(履修指導)</p> <p>★目的・目標</p> <p>学生が社会教育に関心を持ち、資格取得についてある程度具体的なイメージが持てるような履修指導を行う。就職情報を円滑に提供する。</p> <p>A群・学生に対する履修指導の適切性 B群・オフィスアワーの制度化の状況 B群・留年者に対する教育上の配慮措置の適切性 C群・学習支援(アカデミック・ガイダンス)を恒常的に行うアドバイザー制度の導入状況 C群・科目等履修生、聴講生等に対する教育指導上の配慮の適切性</p>
<p>★現状(評価)</p> <p>・現状 新規履修者・継続履修者向けガイダンスを行っている。履修指導については、毎年4月初めに駿河台と和泉、生田地区のそれぞれで、2年生以上の新規履修生対象と継続履修者対象とを分けて、資格課程全体の総合ガイダンスに加え社会教育主事課程独自の履修に関するガイダンスを行なっている。新規履修生には「社会教育とは何か」という基本的な事柄と社会教育主事課程の趣旨および履修方法ならびに社会教育主事の採用状況等について、3年生以上の継続履修生には専門科目の履修に際しての注意事項等を中心に話をしている。また社会教育実習を希望する学生には前年度の2月にガイダンスを行い、実習の趣旨と現場実習の形態や方法等について説明している。 オフィスアワーについては検討中。 留年者は継続履修となるため、特別な配慮は行っていない。 科目等履修生の選考にあたっては面接を行い、それぞれの動機と、有職者の場合には職場の条件などについて話を聞き、履修が可能かどうかを判断してから受入れを決定している。なお本学卒業生が科目等履修生となる場合、多くが継続履修となるため履修について特別な配慮はしていないが、他大学出身者の場合には、これまでの履修科目のすり合わせを行なってスムーズに履修できるよう配慮している。</p> <p>・長所</p> <p>・問題点 日常的な履修指導・学習支援・就職情報の提供に、嘱託職員の配置が必要である</p>
<p>★改善方策</p> <p>・問題点に対する改善方策 嘱託職員の配置を求めていく</p>
<p>(教育改善への組織的な取り組み)</p>

<p>★目的・目標</p>
<p>A群・学生の学修の活性化と教員の教育指導方法の改善を促進するための措置とその有効性  A群・シラバスの作成と活用状況  A群・学生による授業評価の活用状況  B群・FD活動に対する組織的取り組み状況の適切性  C群・FDの継続的实施を図る方途の適切性  C群・学生満足度調査の導入状況  C群・卒業生に対し、在学時の教育内容・方法を評価させる仕組みの導入状況  C群・雇用主による卒業生の実績を評価させる仕組みの導入状況  C群・教育評価の成果を教育改善に直結させるシステムの確立状況とその運用の適切性</p>
<p>★現状(評価)</p>
<p>・現状  社会教育をより具体的に理解できるよう、適時、施設見学ならびに現場の職員や実践者等を招いての講義などを行っている。また授業でも講義形式だけではなく、ディスカッションやワークショップ方式などを導入することで学習を組織し、援助する社会教育職員の基礎的力量が習得できるようにしている。  卒業生には、単発的ではあるが、次年度の授業(社会教育実習)に参加してもらい、自分が受けた授業についてどう思っているか、後輩の前で語ってもらっている。</p> <p>・長所</p> <p>・問題点</p>
<p>★改善方策</p>
<p>・問題点に対する改善方策</p> <p>現在の方法をより体系化するために、担当教員同士で授業方法の集団的検討と共有ができるような機会を作っていく。  卒業後社会教育関係の職場に就職した卒業生と定期的に会合を開き、大学での授業の在り方について意見を出して貰うようにしていく</p>
<p>(授業形態と授業方法の関係)</p>
<p>★目的・目標</p>
<p>B群・授業形態と授業方法の適切性、妥当性とその教育指導上の有効性  B群・マルチメディアを活用した教育の導入状況とその運用の適切性  B群・「遠隔授業」による授業科目を単位認定している大学・学部等における、そうした制度措置の運用の適切性</p>
<p>★現状(評価)</p>
<p>・現状  講義形式を中心としながらも、討論やワークショップ形式、見学などを取り入れての授業、さらには実習科目も開講しており、全体としてはバラエティに富んだ授業形態を採用しているが、これらは担当教員の個人的努力に任されているのが現状である。  全体としてとしてビデオの視聴を主とした授業を行なっているが、Oh-Meiji システムを利用した指導を行なっている教員もいる。</p> <p>・長所</p> <p>・問題点  今後ユビキタス・カレッジ導入の場合は、マルチメディアを活用した教材作りが課題である</p>

<b>★改善方策</b>
<p>・問題点に対する改善方策</p> <p>上記のような工夫している授業形態や方法を教員全体の共通理解にするための、授業方法等についての交流会や講習会を開く。</p> <p>ユビキタス・カレッジに対応した授業方法の検討を始める</p>
<b>(3年卒業の特例)</b>
<b>★目的・目標</b>
卒業科目ではない。また、2年次からの履修としており、3年次での課程修了はきわめて困難。
C群・4年未満で卒業を認めている大学・学部等における、そうした制度措置の運用の適切性
<b>★現状(評価)</b>
<b>★改善方策</b>

### (3) 国内外における教育研究交流

<b>★目的・目標</b>
<p>B群・国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性</p> <p>B群・国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性</p> <p>C群・外国人教員の受け入れ体制の整備状況</p>
<b>★現状(評価)</b>
<p>・現状</p> <p>毎年『明治大学社会教育主事課程年報』を発行し、全国の資格を出している大学・研究機関と社会教育関係施設・機関に送付している。内容としては専任および兼任教員の研究論文に加え、卒業した社会教育関係職員の実践報告と学生による社会教育実習報告などとなっている。特に社会教育関係施設・機関、研究機関から高く評価されている。昨年度は教員が所属する研究集団「社会教育実践分析フォーラム」のホームページを開設し、社会教育実践の記録を授業の教材にできるようにした。</p> <p>・長所</p> <p>本学社会教育主事課程の教育・研究活動の成果を報告できる。また、大学・施設・機関と教育研究上の交流ができる。</p> <p>・問題点</p>
<b>★改善方策</b>
<p>・問題点に対する改善方策</p> <p>専任教員が全国社会教育職員養成研究連絡協議会(社養協)の事務局長となった。職員養成のための全国組織であるので、研究交流のために事務局体制において協力したい。</p>

#### (4) 通信制大学・学部等

★目的・目標・教育研究及びその成果の外部発信の状況とその適切性
ユビキタス・カレッジによる資格付与を目ざす
A群・通信制の大学・学部における、実施している教育の内容、方法、単位認定、学位授与の適切性とそのための条件整備の適切性
★現状(評価)
・現状 ・長所 ・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方策

#### 4 学生の受け入れ

★目的・目標
入学後の資格取得課程につき、入学者選抜については該当せず
(学生募集方法, 入学者選抜方法)
A群・大学・学部等の学生募集の方法, 入学者選抜方法, 殊に複数の入学者選抜方法を採用している場合には, その各々の選抜方法の位置づけ等の適切性
★現状(評価)
・現状 ・長所 ・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方策
(入学者受け入れ方針等)
A群・入学者受け入れ方針と大学・学部等の理念・目的・教育目標との関係 B群・入学者受け入れ方針と入学者選抜方法, カリキュラムとの関係 C群・学部・学科等のカリキュラムと入試科目との関係
★現状(評価)
・現状 ・長所

・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方策
<b>(夜間学部等への社会人の受け入れ)</b>
C群・夜間学部, 昼夜開講制学部における, 社会人学生の受け入れ状況
★現状(評価)
<p>・現状 社会人学生の課程履修は必ずしも多くないが, 履修者は明確な目的意識と職業的な必要性を自覚しており, 一般学生により影響を与えている。 科目等履修生として, 現役の自治体職員(一般行政職)や市民が資格取得を目指している。また, NPOなどのスタッフが業務に役立てるため資格取得を目指すこともある</p> <p>・長所</p> <p>・問題点</p>
★改善方策
<p>・問題点に対する改善方策</p> <p>社会人の受け入れをさらに増やしていく</p>
<b>(科目等履修生・聴講生等)</b>
C群・科目等履修生, 聴講生等の受け入れ方針・要件の適切性と明確性
★現状(評価)
<p>・現状 駿河台校舎の立地を生かし, 現役の一般行政職や市民が資格取得を目指している。</p> <p>・長所</p> <p>・問題点</p>
★改善方策
<p>・問題点に対する改善方策</p> <p>今後とも積極的受け入れ方針を継続するが, 科目等履修生の納付金が高額であることについては検討する。</p>

## 5 教員組織

★目的・目標
<b>(教員組織)</b>
A群・学部・学科等の理念・目的並びに教育課程の種類・性格, 学生数との関係における当該学部の教員組織の適切性

- A群・主要な授業科目への専任教員の配置状況
- A群・教員組織における専任, 兼任の比率の適切性
- A群・教員組織の年齢構成の適切性
- B群・教育課程編成の目的を具体的に実現するための教員間における連絡調整の状況とその妥当性
- C群・教員組織における社会人の受け入れ状況
- C群・教員組織における外国人研究者の受け入れ状況
- C群・教員組織における女性教員の占める割合

★現状(評価)

・現状

社会教育主事養成のための法定課目を充足し, 今日的な社会教育の多様性を配慮した上で, 学生からの相談等にも細やかに対応していくため, 専任二人体制は適切である。

生涯学習概論, 社会教育課題研究, 社会教育実習, 社会教育計画などの主たる専門科目については, ほとんど専任教員が担当している。

専任教員2名に対し兼任教員は4名であり, 特に問題はない。専任教員の年齢構成も問題はない。

教育課程編成に当たっては専任教員2名が必要に応じて打ち合わせをしている。また毎年非常勤講師との打合せを行い, その際に教育課程編成に関する意見や要望を聞いてそれが反映されるようにしているため, 特に問題はない。

女性率は50%(男1, 女1)であり, 適切である。

社会人・外国人研究者は, 現在受け入れていない

・長所

・問題点

★改善方策

- ・問題点に対する改善方策

(教育研究支援職員)

A群・実験・実習を伴う教育, 外国語教育, 情報処理関連教育等を実施するための人的補助体制の整備状況と人員配置の適切性

B群・教員と教育研究支援職員との間の連携・協力関係の適切性

C群・ティーチング・アシスタントの制度化の状況とその活用の適切性

★現状(評価)

・現状

社会教育主事課程は, 司書課程と兼任の短期嘱託職員がいる。今年度よりTAが2名配置され, 学生サービスが改善した。

・長所

・問題点

課程室の管理運営, 学生への就職情報の提供, 実習のサポートなどのために, 他課程同様嘱託職員の配置を大学に要望している。

★改善方策

- ・問題点に対する改善方策

嘱託職員の配置を求めていく

(教員の募集・任免・昇格に対する基準・手続)

A群・教員の募集・任免・昇格に関する基準・手続の内容とその運用の適切性

B群・教員選考基準と手続の明確化  
B群・教員選考手続における公募制の導入状況とその運用の適切性  
C群・任期制等を含む、教員の適切な流動化を促進させるための措置の導入状況

★現状(評価)

- ・現状  
文学部教授会により教員の募集・任免・昇格が行われる。いずれも適切である。
- ・長所
- ・問題点

★改善方策

- ・問題点に対する改善方策

(教育研究活動の評価)

B群・教員の教育研究活動についての評価方法とその有効性  
B群・教員選考基準における教育研究能力・実績への配慮の適切性

★現状(評価)

- ・現状  
日本社会教育学会等の活動への参加により、教員の研究評価が行われるよう努力している
- ・長所
- ・問題点

★改善方策

- ・問題点に対する改善方策

## 6 研究活動と研究環境

★目的・目標

### (1) 研究活動

(研究活動)

A群・論文等研究成果の発表状況  
C群・国内外の学会での活動状況  
C群・当該学部として特筆すべき研究分野での研究活動状況  
C群・研究助成を得て行われる研究プログラムの展開状況

★現状(評価)

- ・現状  
日本社会教育学会、公民館学会等に所属し、依頼論文を執筆するなど、積極的に活動している  
「社会教育実践分析フォーラム」等、実践の記録化と分析、それに基づく社会教育職員の力量形成にかかわる共同的研究の場へ参加している。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・長所</li> <li>・問題点</li> </ul>
★改善方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題点に対する改善方策</li> </ul>

## (2) 研究環境

<p><b>(経常的な研究条件の整備)</b></p> <p>A群・個人研究費, 研究旅費の額の適切性  A群・教員個室等の教員研究室の整備状況  A群・教員の研究時間を確保させる方途の適切性  A群・研究活動に必要な研修機会確保のための方策の適切性  B群・共同研究費の制度化の状況とその運用の適切性</p>
★現状(評価)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状  おおむね充足しているが, 研究内容によっては不足する年度もある。個人研究室は整備されているが, やや手狭ではある。研究時間は教員個人に任されている。日本社会教育学会, 全国社会教育職員養成研究連絡協議会, 社会教育推進全国協議会などへの教員の参加費用を課程から支出している。共同研究費は制度化されていない。</li> <li>・長所</li> <li>・問題点</li> </ul>
★改善方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題点に対する改善方策</li> </ul>
<p><b>(競争的な研究環境創出のための措置)</b></p> <p>C群・科学研究費補助金及び研究助成財団などへの研究助成金の申請とその採択の状況  C群・学内に確立されているデュアルサポートシステム(基般(経常)的研究資金と競争的研究資金で構成される研究費のシステム)の運用の適切性  C群・流動研究部門, 流動的研究施設の設置・運用の状況  C群・いわゆる「大部門化」等, 研究組織を弾力化するための措置の適切性</p>
★現状(評価)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状  教員の個人研究で科学研究費補助金に申請している。</li> <li>・長所</li> <li>・問題点</li> </ul>
★改善方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題点に対する改善方策</li> </ul>
<p><b>(研究上の成果の公表, 発信・受信等)</b></p>

C群・研究論文・研究成果の公表を支援する措置の適切性  
C群・国内外の大学や研究機関の研究成果を発信・受信する条件の整備状況

★現状(評価)

- ・現状  
学会等の出版物, 学内誌としては「社会教育主事課程年報」などがある。
- ・長所
- ・問題点  
研究成果の公表にインターネットの活用を検討したい。

★改善方策

- ・問題点に対する改善方策

## 7 施設・設備等

★目的・目標

(施設・設備等の整備)

- A群・大学・学部等の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性
- B群・教育の用に供する情報処理機器などの配備状況
- C群・社会へ開放される施設・設備の整備状況
- C群・記念施設・保存建物の保存・活用の状況

★現状(評価)

- ・現状  
社会教育主事課程室には, 関係図書および資料, テレビ, ビデオ, パソコンなどが配備されて, 研究会の他, 学生が調べものをしたり自習や話し合いなどをするのに利用されている。社会教育主事課程室がアカデミーコモン 8 階に移行したことにより, 以前より格段に広く快適なスペースが活用できるようになった。  
施設・設備の開放は, 教員参加の研究会や会議等で, 一般の人々が利用するという状況にとどまっている。
- ・長所
- ・問題点

★改善方策

- ・問題点に対する改善方策  
今後とも, 授業, 学生の自学自習や交流, グループ活動などに役立てていく。

## 8 図書館および図書・電子媒体等

★目的・目標

(図書, 図書館の整備)

A群・図書, 学術雑誌, 視聴覚資料, その他教育研究上必要な資料の体系的整備とその量的整備の適切性
A群・図書館施設の規模, 機器・備品の整備状況とその適切性, 有効性
A群・学生閲覧室の座席数, 開館時間, 図書館ネットワークの整備等, 図書館利用者に対する利用上の配慮の状況とその有効性, 適切性
A群・図書館の地域への開放の状況
<b>★現状(評価)</b>
<p>・現状 社会教育主事課程室には, 退職教員の寄贈を中心にその後も収集を続け, 戦後社会教育実践に関する資料が充実しているにもかかわらず, 図書資料の整理が十分に行われておらず, 散逸の危険すらある。また, 所蔵をデータ化して本学OPACでの検索が可能になれば, より広く利用に供することができる</p> <p>・長所 TAの配置により, 蔵書整理の緒について</p> <p>・問題点</p>
<b>★改善方策</b>
<p>・問題点に対する改善方策</p> <p>嘱託職員の配置と, データの整備の予算化を求めている</p>

## 9 社会貢献

<b>(社会への貢献)</b>
<b>★目的・目標</b>
<p>B群・社会との文化交流等を目的とした教育システムの充実度</p> <p>B群・公開講座の開設状況とこれへの市民の参加の状況</p> <p>B群・教育研究上の成果の市民への還元状況</p> <p>C群・ボランティア等を教育システムに取り入れ地域社会への貢献を行っている大学・学部等における, そうした取り組みの有効性</p> <p>C群・地方自治体等の政策形成への寄与の状況</p> <p>C群・大学附属病院の地域医療機関としての貢献度</p>
<b>★現状(評価)</b>
<p>・現状 教員は, 自治体の社会教育委員など審議体の委員を務めたり, 社会教育の講師をしたり, 社会教育職員や住民の自主的活動を援助したりしている。「月刊社会教育」(国土社)という, 戦後日本を代表する社会教育実践誌の編集にも関わっている。また, リバティ・アカデミーの講座も企画・運営するなど, 成人女性のエンパワメントに研究・実践的に関わっている。</p> <p>・長所</p> <p>・問題点</p>
<b>★改善方策</b>
<p>・問題点に対する改善方策</p>

今後とも社会的活動に力を入れていく。

## 10 学生生活

### ★目的・目標

#### (生活相談等)

- A群・学生の心身の健康保持・増進及び安全・衛生への配慮の適切性
- A群・ハラスメント防止のための措置の適切性
- B群・生活相談担当部署の活動上の有効性
- C群・生活相談, 進路相談を行う専門のカウンセラーやアドバイザーなどの配置状況
- C群・学内の生活相談機関と地域医療機関等との連携関係の状況
- C群・不登校の学生への対応状況
- C群・学生生活に関する満足度アンケートの実施と活用の状況
- C群・セクシュアル・ハラスメント防止への対応

### ★現状(評価)

- ・現状  
教員は, 本学総合講座でセクシュアル・ハラスメント防止講座を担当している
- ・長所
- ・問題点

### ★改善方策

- ・問題点に対する改善方策

#### (就職指導)

- A群・学生の進路選択に関わる指導の適切性
- B群・就職担当部署の活動上の有効性
- C群・就職指導を行う専門のキャリアアドバイザーの配置状況
- C群・学生への就職ガイダンスの実施状況とその適切性
- C群・就職活動の早期化に対する対応
- C群・就職統計データの整備と活用の状況

### ★現状(評価)

- ・現状  
毎年, 社会教育関係職員を希望する学生が少なくない。とくに「社会教育実習」の授業は, 学生の社会教育職への希望を高めている。しかし, 現実には社会教育主事の特別採用は極めて限られている。にもかかわらず, 本学から倍率の高い社会教育主事特別採用に合格している。また, 社会教育指導員や児童館の児童厚生員等の非常勤職は比較的募集があり, 本学からもほぼ毎年就職しているが, 労働条件が厳しいという問題がある。  
学生の社会教育職への就業後も, 大学と連絡が取れるよう, 教員ができる限り配慮している
- ・長所
- ・問題点

### ★改善方策

・問題点に対する改善方策

学生の就職先をデータベース化するかどうか、検討する

### 13 事務組織

★目的・目標

(事務組織の役割)

B群・ 教学に関わる企画・立案・補佐機能を担う事務組織体制の適切性

B群・ 学内の予算(案)編成・折衝過程における事務組織の役割とその適切性

B群・ 学内の意思決定・伝達システムの中での事務組織の役割とその活動の適切性

B群・ 国際交流, 入試, 就職等の専門業務への事務組織の関与の状況

B群・ 大学運営を経営面から支えうるような事務局機能の確立状況

★現状(評価)

・現状

資格課程事務室は, 既存の学部改革にともなう事務のみならず, 新学部設置に伴う再課程認定や教職大学院等の新規業務で多忙を極めており, 体制の拡充が必要である。

・長所

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方策

職員の増員を求めている

### 14 自己点検・評価

★目的・目標

(自己点検・評価と改善・改革システムの連結)

A群・ 自己点検・評価の結果を基礎に, 将来の発展に向けた改善・改革を行うための制度システムの内容とその活動上の有効性

★現状(評価)

・現状

自己点検を教育研究活動の改善・改革につなげるシステムには, 現状課題が多い。

・長所

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方策